

南部 健一 名誉教授、紫綬褒章を受章

4月28日、政府は平成20年春の褒章の受章者を発表し、東北大学流体科学研究所の南部健一 名誉教授が紫綬褒章を受章することとなりました。発令は29日に行われます。紫綬褒章は「学術、芸術上の発明、改良、創作に関して事績の著しいもの」に授与される褒章です。南部名誉教授の「流体力学研究」に関する業績が認められ、紫綬褒章が授与されます。

南部名誉教授は1980年に *J. Phys. Soc. Jpn.* で発表した論文にて、ボルツマンが1872年に発表して以来、100年以上も解くことができなかったボルツマン方程式の厳密な確率解法を世界で初めて導出しました。また、1997年から2000年にかけて *Phys. Rev. E* で発表した論文にて、ランダウがランダウ・フォッカー・プランク方程式を1937年に発表して以来、初めてその一般解法を導きました。南部健一名誉教授の研究業績は学術的に重要であるだけでなく、航空宇宙や半導体プラズマプロセス、真空機械など産業界への寄与も非常に大きいものです。

問合せ先： 流体科学研究所 庶務係
shomu@ifs.tohoku.ac.jp
022-217-5302